

## 島のむんがたり

## 世界自然遺産の島

進化は続く

郷土資料館では、「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」の世界自然遺産登録が正式に決定したことから、夏休み期間中に来館する子供たち向けのプレゼントとして、アマミノクロウサギやアカヒゲ、トクノシマエビネやアマミマルバネクワガタなど全30種類の写真を使った「島の動植物缶バッジ」を製作しました。

写真素材に関しては徳之島らしいものを使用したいと考え、町の文化財保護審議会委員で、永年、鹿児島県の希少野生動植物保護推進委員を務めている池村茂さんにご提供頂いたのですが、その際に聞いた話がとても興味深いものでした。

世界自然遺産登録に向けて、環境省がユネスコの世界自然遺産

委員会へ提出した推薦書には「さまざまな固有種の進化の例が見られ、特に、多くの遺存固有種及び、または独特な進化を遂げた種が存在する」と記載されています。

この固有種の中でも、例えば、奄美大島、徳之島、沖縄島北部に生息するトゲネズミの場合、かつては単一種だったのですが、研究成果に基づき島毎にアマミトゲネズミ・トクノシマトゲネズミ・オキナワトゲネズミの3種に分類されました。つまり、島々が分断されたことで隔離されて分化した固有種であると考えられるようになったのです。

奄美大島と徳之島にのみ生息するのが国の特別天然記念物でもあるアマミノクロウサギですが、今の缶バッジでは、全身が黒いウサギに加え、後ろ足の一部が白くなっている通称「白タビ」の2種類を作成しました。この「白タビ」は、徳之島の一部地域、井之川岳の裾野である母間と当部の周辺のみで確認されており、池村さんは「天城岳の周辺地域ではまったく



(提供：池村茂氏)

通称「白タビ」のアマミノクロウサギ

見ることができないのは、両方の山が分断されているからではないか」と推測しています。

突然変異とも考えられますが、幼獣から成獣まで数年に渡って池村さんは写真に収めており、環境省がフンやロードキルで被害にあった遺体を回収しているのとこのと。今後、それらの解析が進めば「トクノシマノクロウサギ」となる可能性もゼロではないと期待したいところです。

他にも、奄美大島と徳之島、沖縄での固体の違いなどの面白い話がありますので、またの機会に紹介したいと思います。

【郷土資料館館長 遠藤 智】

問 郷土資料館

☎ 0997-82-2908

特製「動植物缶バッジ」

